

## 六、現在の豊田講堂

### ◆歴史的建築物として

東山名大豊田講堂は、東山における名大の総合学園の核となるものである。この意味に於て設計は当初より一貫して講堂設計即学園環境設計として進めた。：（略）：こうした設計の意図が充分汲み入れられ、この講堂及び広場を中心にして今後更に活発な学園建設が行われるようになれば、それは設計者のもつとも喜びとするところである。

（『日刊建設通信』一九六〇年五月二一日付）

右の文章は、豊田講堂の設計者である楨文彦氏が、講堂竣工直後に記したものです。

二〇〇五（平成一七）年、豊田講堂は竣工四五周年を迎えました。この間、名古屋大学を含めた東山地区周辺は大きく様変わりしました。しかしその一方で豊田講堂は、楨氏が望んだように、大学整備の骨格としてつくられたグリーンベルトの軸上に位置づけられ、きわめてモニュメンタルな建物となりました。



豊田講堂完成直後の東山キャンパス

また、一九九三年一〇月、豊田講堂は名古屋市より「都市景観重要建築物」の指定を受けました。これは、戦災で多くの建物を焼失したため歴史的建造物が少ない名古屋市にとって、都市景観を形成していく上で地域のシンボルとなるような重要建築物を守っていくことを目的としたものです。

さらに、二〇〇三年には、モダン・ムーブメントにかかわる建物と環境形成の記録調査および保存のための国際組織 DOCOMOMO (Documentation and Conservation of buildings, sites and neighbourhoods of the Modern Movement) の日本支部である DOCOMOMO JAPAN による「DOCOMOMO in Japan 近代建築100」に選ばれました。豊田講堂は、日本を代表する近代建築として認められたのです。

◆ 豊田講堂の改修・増築工事

しかし豊田講堂は、一九六〇（昭和三五）年に完成して以

来、比較的小規模な改修工事はあったものの、大規模な改修・増築はなされておらず、その歴史的意匠は別にして、建物や施設の老朽化がいちじるしくなっていました。大学のシンボルにふさわしい、さらに利用者のニーズにあった改修を行うことが、名古屋大学の大きな課題となっていたのです。そしてそれは、法人化後の限られた財源を考えれば、容易なことではありませんでした。

そのようななか、四五年前に豊田講堂を建設寄付していただいたトヨタ自動車株式会社（建設当時はトヨタ自動車工業株式会社）、およびトヨタグループ各社の寄付により、豊田講堂の全面改修・増築工事が行われることになったのです。これを、昨今の名古屋大学の最も大きなニュースの一つとして数えることは、おそらく大方の人の支持をいただけるものと思います。

しかも、四五年前と同じく、楨文彦氏（株式会社楨総合計画事務所代表取締役）が設計を担当し、竹中工務店が工事を施工することになったことも、大変感慨深いものがあります。とくに楨氏は、当時三一歳の新進の建築家でしたが、この豊田講堂を出世作として、今や日本を代表する世界的建築家となっています。二〇一三年には、日本芸術院賞・恩賜賞を受賞、文化功労者にも選ばれました。

改修・増築工事は、二〇〇六年一月二八日に起工式が行われ、同年一二月二〇日に着工、翌二〇〇七年一二月二五日に竣工し、同日に完成修祓式が行われました。

## ◆意匠の保存継承と新施設

それでは、ごく簡単にはありませんが、リニューアルされた豊田講堂について紹介したいと思います。

まず外観ですが、耐震補強が施されながらも、少なくとも前方から見る範囲では改修前と全く変化はありません。これは、豊田講堂の建築物としての歴史的価値を尊重することを最優先し、日本を代表する近代建築の意匠を保存継承するため、あえてそのようにしたからです。豊



豊田講堂とシンポジオンをつなぐホワイエ

田講堂の大きな特徴の一つである、

木型の木目を表面に残したコンクリート打ち放しも、見事に再現されています。

ただし、後方から見ますと、改修前と大きく異なる点があります。それは豊田講堂と、以前はその後ろ側に独立した建物としてあった名古屋大学シンポジオンが、ホワイエ（アトリウム）によってつながれ、一体

化したことです。

また、このホワイエは、約六〇〇㎡の面積と約一〇mの高さを持ち、二つの建物を有機的にむすんで、それぞれの機能を拡張するものとなっています。従来は吹きさらしの半屋外空間となっていた二階のピロティも、屋内ロビーとしてホワイエの大空間と連結し、展示用の可動パネルを設置して、新しい情報発信拠点としても使えるようになりました。

#### ◆ホール性能の改善

講堂本体にも、多くの機能性や快適性の改善がなされました。

客席は、固定椅子の幅や前後の間隔を従来よりも広げるなど、ゆったりと快適に座れるようにしました。さらに、一階の客席には収納式テーブルを設けて、ノートパソコン等の利用に供し、電源やLANシステムも使用できるようになりました。また、空調設備を抜本的に改善し、ホール背面の上部から吹き降ろす全体空調方式から、客席の段床部に吹き出し口を設けて床面付近を効率的に空調する、居住式空調方式を採用しました。照明設備も、操作性を改善し、イベントごとにシーン設定をワンタッチで切り替えられるようにしたほか、ステージ・客席それぞれに適した照度の確保ができるようになりました。

音響設備は、シンプルな操作で意図した効果を得られるようにシステムを再構築したほか、



改修後の舞台から見たホール全景

壇上の講演者が自分の声を聴き取りにくいという従来の問題点を、「跳ね返りスピーカー」によって解消しました。また、客席エリアに小型スピーカーを多数設置し、どの座席にいても音声を明瞭に聴き取れるように配慮しています。

舞台の機能も大幅に拡充されました。改修前までの舞台は、中央部に長方形のステージが置かれただけの簡素なもので、バックヤードもほとんどなく、利用形態が制約されていました。これを改善するため、袖舞台を新設し、機器操作や出待ちスペースとしての利用等に対応するとともに、ステージを可能な限り拡張しました。ステージのみの部分空調も設けられ、サークル活動の稽古や練習なども快適に行うことができます。

## ◆竣工式・竣工記念ホームカミングデイの開催

二〇〇八年二月二日、豊田講堂改修竣工式・同竣工記念ホームカミングデイが、豊田講堂において約二五〇〇人の参加者を得て盛大に行われました。

ホームカミングデイは、名古屋大学の活動を同窓生や学生のご家族、地域住民の方々にご覧いただくため、二〇〇四年度から毎年秋に開催しているものです。今回は、前年秋の分を竣工式の当日に移動させての開催でした。竣工式終了後、「ものづくりの源流」をテーマに、トヨタ自動車が開発した「トヨタ・パートナロボット」によるパフォーマンス、九代玉屋庄兵衛氏によるからくり人形の実演がありました。また、午後からの竣工記念パーティー（シンポジオンホール）のあとは、トークセッション「日本の教育を考える」が開催されました。

竣工式では、豊田章一郎全学同窓会会長、松原武久名古屋市長とともに、榎文彦氏の祝辞がありました。榎氏は、約半世紀前の講堂建設当時の思い出をまじえて祝辞を述べましたが、その中で、正面から見た豊田講堂のデザインは、門の略字「冂」になぞらえたものであるとの話を聴くことができました。ホールの天蓋が、冂の中央の点にあたるということです。

半世紀前も現在も、名古屋大学には明確な正門がありません。すでに榎氏は建設当時から、豊田講堂について「冂としての建物」という言い方をしていますが、この半世紀のあいだ、豊田講堂は象徴化された正門としての役割を果たしてきたといえるのではないのでしょうか。

## ◆BELCA賞を受賞

この豊田講堂の改修・増築工事は高く評価され、二〇一一年二月に第二〇回BELCA賞（ベストリフォーム部門）を受賞しました。

BELCA賞は、公益社団法人ロングライフビル推進協会（BELCA: Building and Equipment Long-life Cycle Association）によって創設されたものです。応募の中から、適切な維持保存や優れた改修を実施したとくに優秀な建築物の関係者を表彰する、我が国初の既存建築物の総合的表彰制度です。ベストリフォーム部門は、改修後一年以上五年未満の建築物で、その改修によって画期的な活性化を計った物件のうち、とくに優秀な建築物を対象としています。

選考講評では、歴史的文化的価値の高いモダニズム建築である豊田講堂に対し、外観を保全しつつ機能性の向上やシンポジオンとの一体化をおこない、「建物を使い続ける」という大学の明確な意思とそれに応えた技術側の努力が建築の活性化、長寿命化を実現した優れた範例である。」と評価されました。

## ◆国の登録有形文化財となる

そして二〇一一年七月、「名古屋大学豊田講堂」が国の有形文化財として登録されました。



豊田講堂に掲げられている有形文化財の登録プレート

この登録は、文化財保護法にもとづき、所有者の希望を受けた文化庁が文化審議会に諮問し、その答申をへて決定されるものです。名古屋大学としては、鶴舞キャンパスにある愛知県立医学専門学校（医学部の前身）および愛知病院（医学部附属病院の前身）の門と外塀あわせて三件（二〇〇七年）以来の四件目の登録となりました。

名古屋大学は、名古屋帝国大学としての草創期に、物資・資金不足のため東山キャンパスに突貫工事の簡易な建築物しか建てられなかったこと、あるいは空襲のため鶴舞キャンパスが甚大な被害を被ったことなどから、その頃の建築物が現在に残っていません。その意味でも、大学のシンボリックな建築物が文化財として認められたことは、きわめて大きな意義を持つていると思います。